



May Mobility 自動運転技術の日本への導入

経済産業省様「モビリティDXプラットフォーム会員交流イベント」
自動運転セミナー

January 16, 2025

中村 卓史 Tak Nakamura, Director, Japan Country Manager

takashi.nakamura@maymobility.com



目次

1. May Mobility のご紹介
2. 自動運転技術の日本への導入
3. 今後の展開

The background of the slide is a photograph of a white car, likely a Toyota Mirai, with a green semi-transparent overlay. The car's front side mirror and charging port are visible. The text "May Mobility" is partially visible on the side of the car.

May Mobilityのご紹介

自動運転を活用し、
誰もが、行きたいところに、
安全に簡単に楽しく行ける世界を

May Mobility

2017年創業

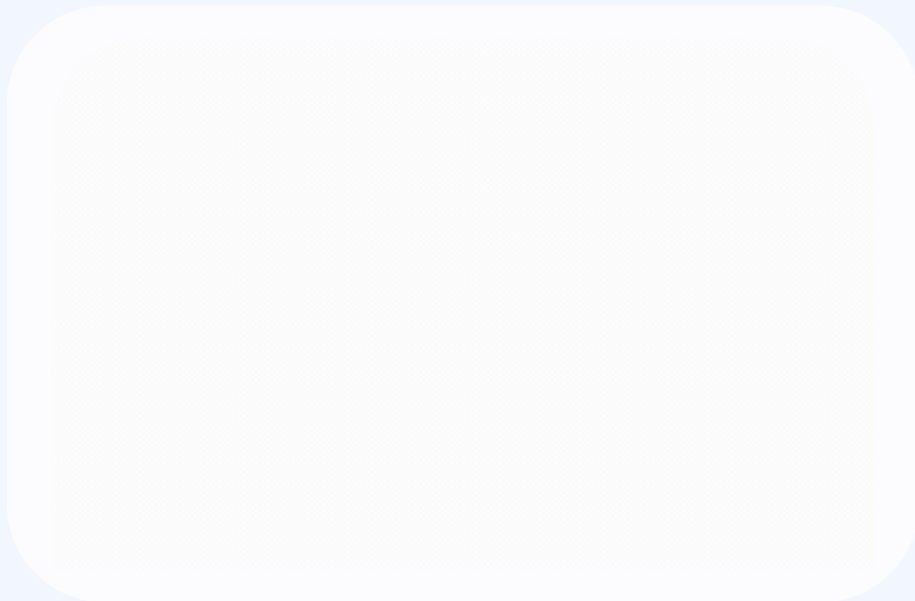
本社: 米国ミシガン州アナーバー



既存交通機関の前後を 自動運転サービスで繋ぎ 交通サービスの ギャップを埋める

自動運転車という移動手段を追加することで、
移動の自由を全ての人に。

そして、もっと人に優しい街に。



日本と米国で運行



40万+の搭乗実績



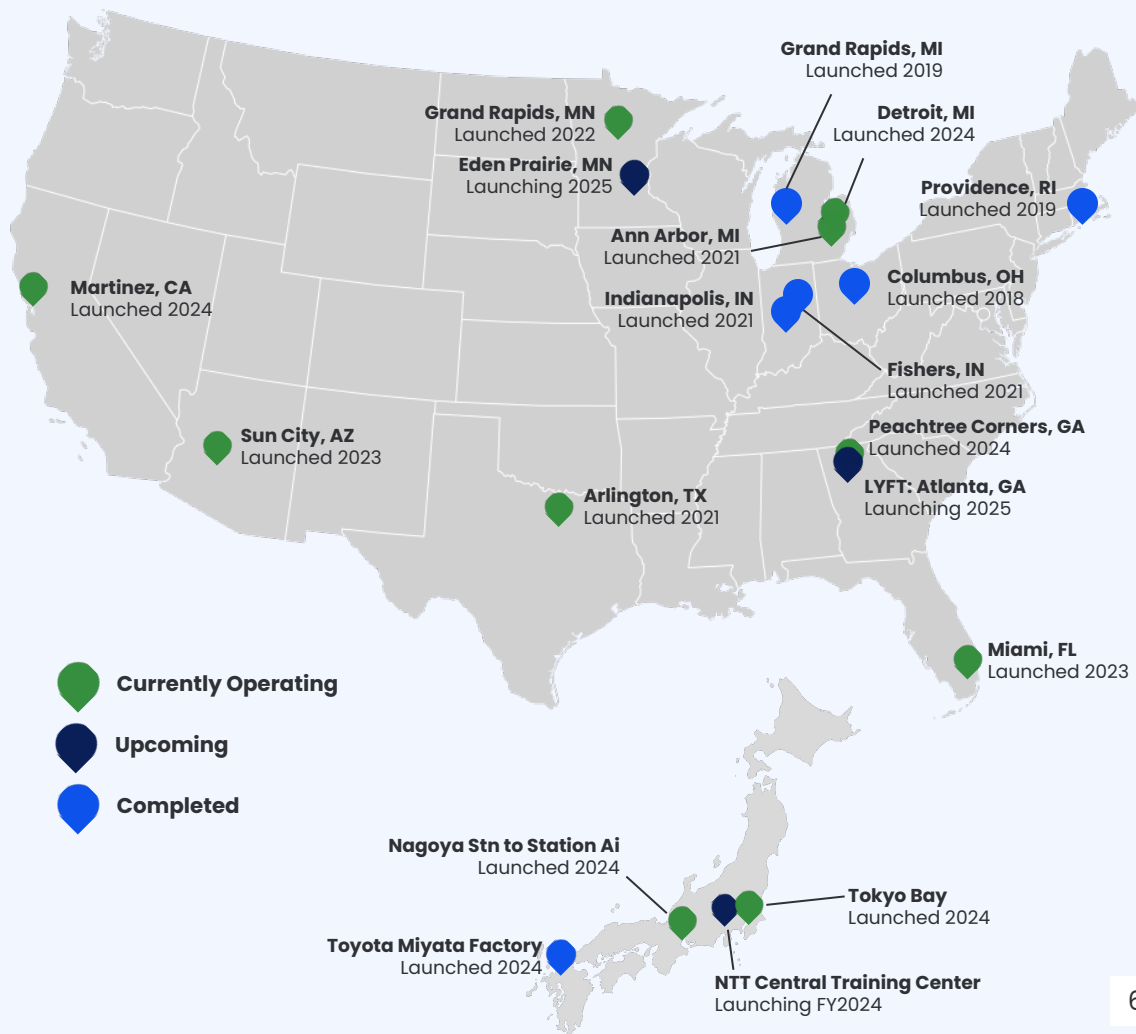
日本と米国の10箇所で
サービス展開



運用形態はターンキー
またはパートナーシップ

運転手非搭乗(Driver-out)

- Sun City, アリゾナ州
- Ann Arbor, ミシガン州



地域の困りごとを 解決する手段として 地元自治体 と協業

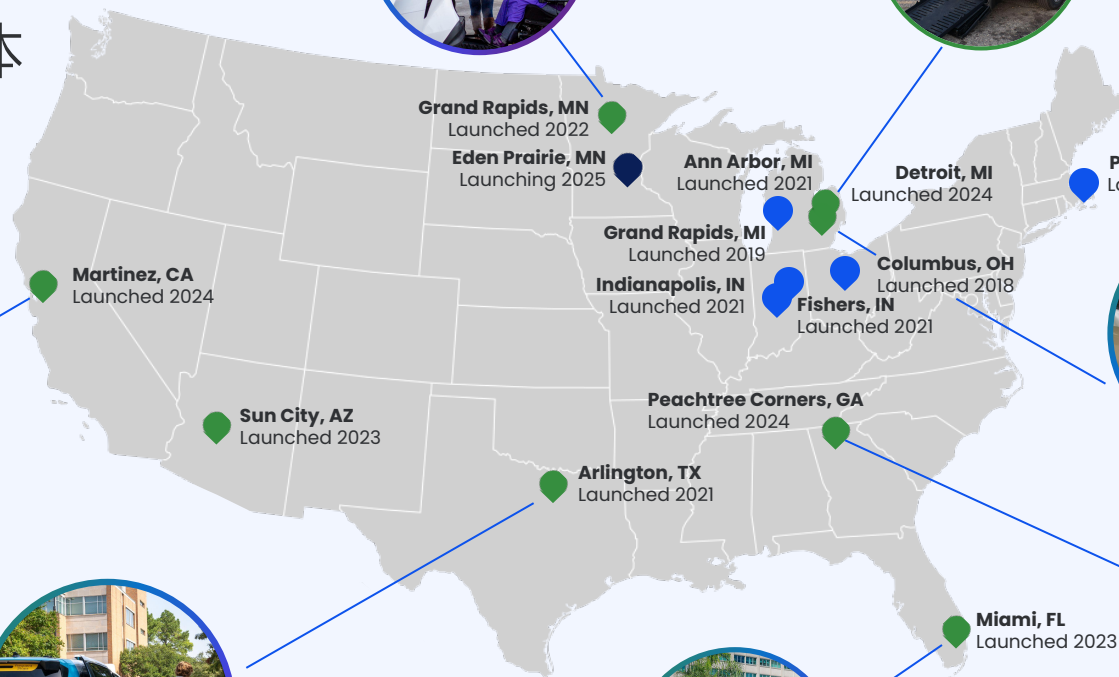


田舎の高齢者に
移動手段を提供



車椅子利用の人々に
都市の移動手段を提供

- Operating
- Upcoming
- Completed



大学構内の
移動手段を
提供



従業員の
移動手段を
提供



公共交通機関の一部
(マイクロランジット)



公共交通機関の一部
(マイクロランジット)



通院+通勤の
移動手段を提供

対応プラットフォームを順次拡大

2022

トヨタ自動車(株)の「シエナ」を
ベースとして開発した車両



米国で運行中
日本で実証中

2024



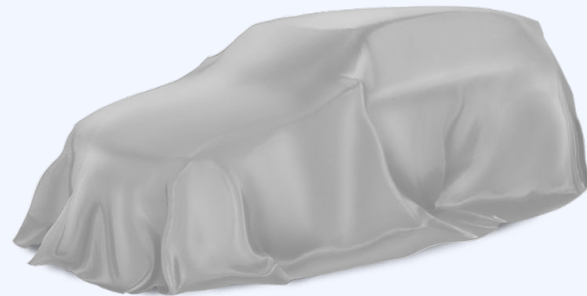
+ トヨタ自動車(株) e-Palette



Photograph by Koji Maeda

日本で2024年実証実験開始

+ New Platform



May Mobilityの自動運転システム

認知：ライダー/レーダー/カメラ

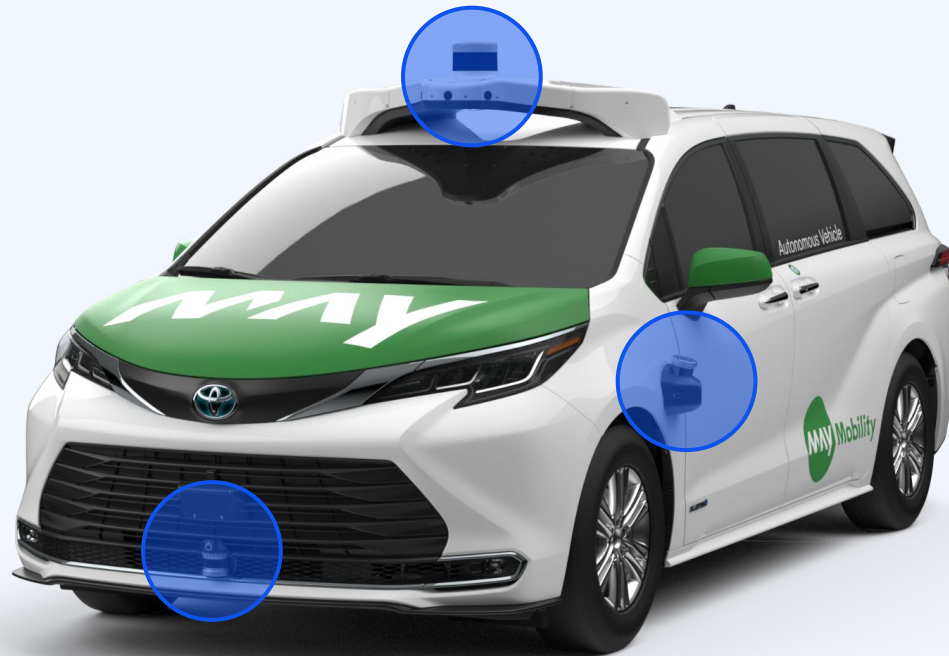
センサフュージョンで360度の環境を認識

判断：MPDM 自動運転システム

認識システムと一体で安全で快適な行動を選択

操作：車両メーカ製ドライブ・バイ・ワイヤ

MPDMが選択した行動を忠実に実現



MPDM(Multi-Policy Decision Making): 独自の自動運転アルゴリズム

安全を重視した新しいアプローチ

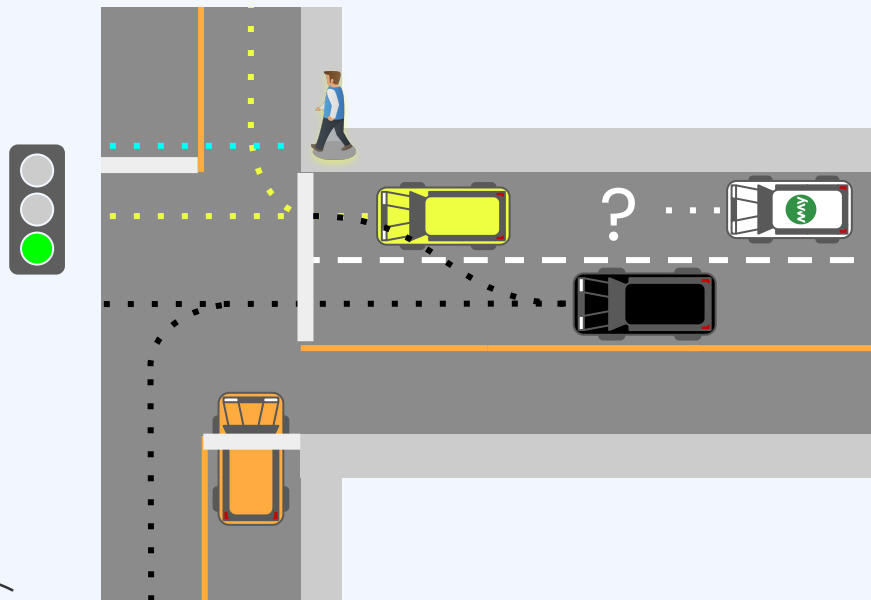
- 事前に設定したルールではなく、認知した環境でのシミュレーションを利用して行動を決定 (200 ms毎)
- 他の道路利用者が取り得る行動をシミュレーションし、自車の選択肢を安全性と快適性で評価して選定
- 人間の運転手が行っている判断プロセスと類似

想定外への対応に強み

- ルールベースのアプローチは想定外への対応に課題
- MPDMは一般化することで想定外での安全性・信頼性・説明可能性に強み

拡張性に強み

- 認知に係る搭載機器計算量が少なく低電力消費・低コスト
- 新しい交通環境に対応するための追加データ量が少なく、迅速なサービス展開が可能



自動運転技術の日本への導入

米国で鍛えた自動運転技術を日本に導入

2021-22

広島/東広島市

(運用: MONET様)

(車両: POLARIS GEM)

2023

東京/竹芝

(運用: MONET様)

(車両: 注1)

2024

愛知/名古屋 (NTTドコモ様)

東京/NTT中央研修所 (NTT東日本様)

東京/臨海副都心地区 (MONET様)

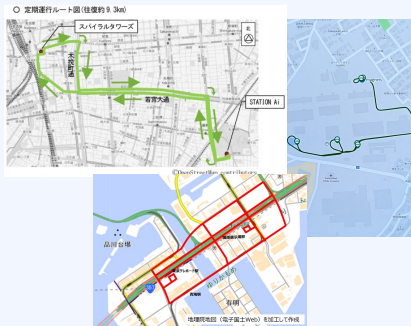
(車両: 注1)

福岡/トヨタ自動車九州様

宮田工場内

(運用: MONET様)

(車両: e-Palette)



©トヨタ自動車九州

各路線図は各社報道発表・報道記事より引用



Photograph by Koji Maeda



(注1) トヨタ自動車株式会社の「シエナ」をベースとして開発した車両

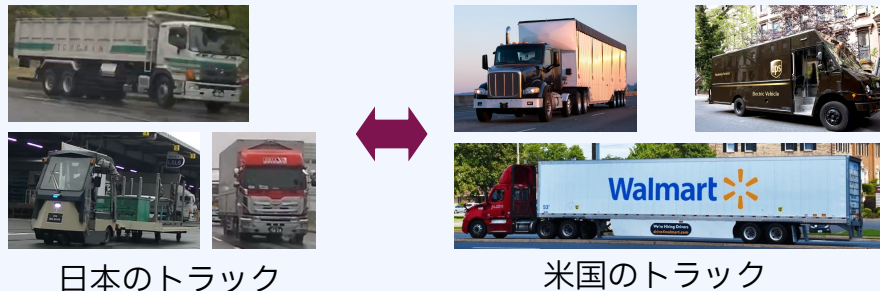
日本へのローカライズ

日本の交通事情にあわせた認識システム更新

例1: 信号認識



例2: 車両認識

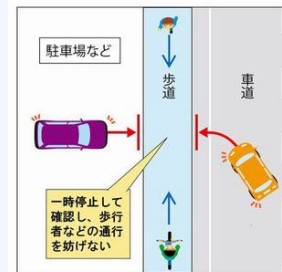


日本の交通環境に対応した設定の追加

例3: 日本の車両用防護柵への対応



例4: 交通規則に対応した地図作成ルール追加



あいち自動運転シャトル

名古屋市中心部で最大48km/hでの
セーフティドライバーが搭乗した
自動運転を実証中



MAY



あいち自動運転シャトル 概要

サービス提供: NTTドコモ様

交通量の多い都市部で、幹線道路の車速に沿った自動運転車両での定期運行は全国初

期間	2024年11月～2025年3月 5ヶ月間
運行時間	平日10:00～16:30
運行区間	名古屋駅～STATION Ai（鶴舞公園）
車両	トヨタ自動車(株)のシエナをベースとして開発した車両
定員	4名
乗車料金	無料
運行設計領域 (ODD)	道路条件：公道 最高速度：48km/h 自動運転レベル：Level 2(運転手付き)



NTTドコモ様 他 パートナーのみなさまとの協業で運行

【あいち自動運転シャトルプロジェクト体制】



(参考)
米国既存サイト



今後の展開

出資者・戦略的パートナーとの協業により、技術開発とサービス展開を加速

これまでに、ファイナンシャル、および、ストラテジックの出資者から約3億米ドル(約450億円)を調達

主な出資者様



自動運転サービスの社会実装に向け協業パートナーと共に推進



米国での
B2Cビジネス拡大の
パートナー
2025年ジョージア州
アトランタ市で
実証開始予定



米国での
B2Gビジネス拡大の
パートナー候補と
協議中



NTT

日本での独占販売権保有パートナー
日本国内でのLevel 4 自動運転
社会実装に向けて協業推進

ご清聴ありがとうございました



中村卓史
Tak Nakamura

Director, Japan Country Manager
takashi.nakamura@maymobility.com
090-5212-5373



MAY MOBILITY PROPRIETARY & CONFIDENTIAL

